

見どころ紹介

1 鍋掛公民館 (市の施設)

明治6年(1874年)に開校した「日新館」(旧鍋掛小中学校)跡地にある施設。トイレ使用可(ご利用の際は声をかけてください)。TEL0287-60-1164
休館日 国民の祝日・年末年始(12/28~1/4)

日新の館

鍋掛地区の歴史と自然を展示した施設。奥州街道の「鍋掛宿」「越堀宿」を再現した模型も展示。入場無料。

開館時間10:00~17:00 TEL0287-64-1343
休館日 月・国民の祝日・年末年始(12/28~1/4)

所 鍋掛531



2 鍋掛のイトヨ (市指)

イトヨは栃木県に棲息している希少な魚の一つ。昭和50年(1975年)頃から鍋掛小学校の児童が、保護観察を行なっている。

秋篠宮殿下歌碑

平成23年3月の東日本大震災後、湧水の枯渇により、イトヨなどに大きな被害があった。数ヶ月後に湧水が戻り、魚たちは生き延びることができた。同年11月、秋篠宮殿下が「イトヨの里」をご視察になり、お歌を詠まれたことから建立。



3 清川の地蔵尊

建立は、延宝7年(1679年)。当時の宿場の生活は決して楽ではないと思われるが、人々の信仰の強さを物語る大きな地蔵である。



4 芭蕉の句碑 (市指)

野を横に馬牽(ひ)きむけよ ほととぎす
芭蕉が黒羽より高久に向う道すがら、手綱をとる馬子の願いにより作り与えた句を碑にしたもの。所 鍋掛609

奥州街道 鍋掛宿

江戸時代に入り奥州街道が公道として整備され、参勤交代などが実施されるようになり宿場として栄えた。



正観寺

摩尼山・蓮華院・正観寺と称する。真言宗に属し、大田原市の金剛寺院末である。明応(1492年)年代、本寺金剛寺院住職、高栄僧都の開基。所 鍋掛873

正観寺のシダレザクラ (市指)

正観寺境内の東側山門の近くにあり、4月中頃から端麗で淡いピンクの花をつける。シダレザクラは俗称で、エドヒガンの変種。



5 鍋掛神社 (愛宕神社)

寛文5年(1665年)以前の勧請。愛宕とは、火を意味する古語からきているともいわれ、火伏せ(火災を防ぐ)の神がまつられている。

所 鍋掛944

鍋掛の一里塚 (市指)

奥州街道鍋掛愛宕峠に築かれた一里塚で、江戸より41里(約161キロメートル)の距離を示す塚である。慶長9年(1604年)に築かれたとされる。



6 樋沢神社 (八幡神社) 駒石・葛籠石

後三年の役(1083~1087年)で陸奥平定に向う八幡太郎義家(源義家)が戦勝祈願をしたと伝えられている。



7 樋沢の不動明王

明暦2年(1656年)に作成された寄木造りの像で、地元では「お不動様」として親しまれている。※個人宅地内にあります。見学の際は声をかけてください。所 鍋掛1516-75

8 樋沢の大沼

延暦16年(797年)坂上田村麻呂が盗賊征伐に向かう途中、この大沼に住む人食いウナギを退治したといわれている。

所 鍋掛1665-2



9 成功山

那須野ヶ原の開拓にあたり尽力した鍋島侯爵の功績を称え、鍋島農場解放の記念碑が建立されている。



那珂川の渡し(昭明橋)

江戸時代初期頃は渡河するには必ず川人足に依頼し、渡し賃を払わなければならなかった。江戸時代末期には舟橋が架設され通行料をとっていた。



10 浄泉寺

見滝山・龍法院・浄泉寺と称する。真言宗で、明暦元年(1655年)4月、有春和尚の開山。境内入口に栃木県を代表する画家、高久露厓の碑がある。所 越堀116

越堀の大杉 (市指)

樹高約20m周囲約5m、大人4人で抱えきれぬほどの大木。浄泉寺境内からは木々に遮られ見えないため、近づくにつれ、思わぬ大きさに驚かされる。苔むした約50段の階段を上る価値あり。

黒羽領境界石 (市指)

黒羽藩主大関増業が、藩の領地と他の領地との境界を明示するために建立。



11 奥州街道 越堀宿

伊達公出府の折、那珂川洪水で渡河出来ず、急遽、川岸に仮屋を建て、減水を待って江戸に向かった。越堀宿はこのときの仮屋を払い請け、旅籠に建て替えた事に始まる。

所 越堀116-2

12 余笹川見晴らし公園

平成10年8月の那須水害による災害復旧事業として作られた、余笹川が一望できる公園。平成11年9月の天皇后両陛下ご視察を記念する碑がある。



13 弁慶の足踏み石 (馬頭観世音碑)

弁慶が源義経と奥州平泉へと落ち延びる道中、石を足台にして馬に乗りとうとしたところに、重みで石の表面が履いていた草鞋の形に窪んでしまったという。所 寺子850-2



14 寺子の地蔵尊 (市指)

享保年間(1716~1736年)に見舞われた大飢饉の餓死者を供養するために建立されたと伝えられる。所 寺子1277-1



15 会三寺

普門山・蓮乗院・会山寺と称する。真言宗で、文亀元年(1501年)謙応和尚の開山である。境内に木像の地蔵尊80体を安置し、ハシカ地蔵として信仰の対象になっている。所 寺子1246



16 寺子のエドヒガン (市指)

樹高約16m、目通り周囲約6.5m、樹齢約350年。毎年4月上旬から中旬にかけて見事な花を咲かせる。平成元年(1989年)には「とちぎの名木百選」にも選ばれている。

所 寺子1060



17 寺子の一里塚

江戸より42里(約165キロメートル)の距離を示す一里塚である。所 寺子1014-6



富士見峠の馬頭観世音

安永4年(1775年)建立。馬頭観世音は、荷役として世話になった馬の供養と、旅人の交通の安全を祈り道標として建てられた石仏である。

市指 … 那須塩原市指定文化財

所 … 所在地